

「牧場体験・料理教室」を開催

(社)岡山県畜産協会

この事業は正式には、「地域畜産ふれあい体験交流推進事業」という名称で全国競馬・畜産振興会の助成を頂いて実施したのですが、長くて内容がわかりづらいのでここでは「牧場体験・料理教室」と表現して紹介します。

この事業の目的は畜産物の生産現場や畜産の果たしている役割並びに家畜と人の関わりなどを消費者や児童生徒に理解してもらうとともに、都市と農村の交流を推進するため、地域の教育機関等と連携して、地域交流協議会を設置し、関係団体と連携のもと各種の畜産ふれあい体験活動と情報提供等を行うものです。

1. 事業の概要

(1) 地域交流牧場協議会の開催

平成19年6月27日(水)に行政機関、消費者団体、生産者団体、交流牧場受入 農家などで構成されている地域交流牧場 協議会を開催して、本年度計画している「牧場体験」「料理教室」などの開催方法を協議しました。

この会議で提案のあった①県が進めている協働事業の「酪農イキイキ大作戦」の事業と連携して進めること。②募集については一般募集として、広くPRすること。③料理教室は栄養士に呼びかける方が効果的である。などの意見を参考にして進めました。

(2) 牧場体験の開催

平成19年8月25日(土)真庭市蒜山の中国四国酪農大学校、蒜山酪農農業協同組合育成牧場、ジャージーランドで開催しました。この牧場体験は一般募集として、各報道機関に載せてもらい、40名の募集に対して95名の応募があり、厳正な抽選の結果41名(子供

28名、保護者13名)が当選されました。

その日は真夏の暑い太陽が照りつける日でしたが、最初に酪農大学校で牧柵のペンキ塗りをして、その後、ジャージーランドで地産地消としてジャージー牛肉の焼肉を食べ、昼から育成牧場で「搾乳体験」「エサやり」「アイスクリームづくり」などを行いました。帰りに、再度、中国四国酪農大学校第2牧場に寄り、搾乳風景を見学しました。

アンケートの結果では、子供さん、保護者ともに第1位には「搾乳体験」と答えられ、人気の高さが伺えました。

予想していたより人気があったのが、子供さんでは暑い中で作業したペンキ塗りで、約6割の人が良かったと答えていました。保護者では、搾乳風景の見学で、興味深げに見学をされていました。「牛とのふれあいはいかがでしたか」という問いに対して、約7割の子供さんが「温かった」と答えていました。そして、ほとんどの方が「来てよかった。」「楽しかった。」「また来たい。」と答えられ、牧場体験が評価されていると感じられました。

(3) 料理教室の開催

料理教室は牛肉と牛乳を使って2回開催しました。

ア. 牛肉料理教室の開催

平成19年11月13日(火)に加賀郡吉備中央町で開催しました。

当日は、さわやかな秋晴れが広がり、鮮やかな紅葉に染まる吉備中央町のストックファームを訪れました。

年度当初の地域交流牧場協議会で頂いた意見を参考に、参加者として県栄養士会総社支

部の栄養士さんに呼びかけ、他に行政機関などの参加を含めて25名が参加しました。最初に肉牛視察としてジェイエイ畜産の肥育場、次いで育成牧場のストックファームを見学しました。

その後、吉備中央町農村環境改善センターで、政木信昭先生による牛肉料理講習を行い、牛肉を使った料理を教わりました。みんなで試食しましたが、改めて“おかやま和牛肉”の美味しさを実感しました。その後、「食の安全・安心を考える」というテーマでわかりやすいDVDの放映と県畜産課からお肉の安全・安心の講義がありました。

アンケートの結果、「何が良かったですか。」という問いに対して、約6割の人が「牛肉の安全・安心対策がわかったこと」「肉牛の生産現場が見学できたこと」と答えられており、初めて肉牛を目で見て感激されていた様子でした。

「国産の畜産物についてどう思いますか」という問いに対して、「安心して買える」という回答が最も多く、約7割でした。

その際に出された意見を列挙しますと、①命の大切さを子供達に伝えたい。②トレサビリティにより安全でよい肉が食べられるようになりよかった。③生産者のご苦労、気づかいを聞いて感心した。④おかやま和牛肉の美味しさを実感できた。⑤今回得られた情報を広げたい。⑥国産牛肉が安全なことがわかりました。⑦食卓にのぼるまでには沢山の人の手を通っていることがわかった。などとても理解のある意見が寄せられました。特に、出席者が栄養士の皆さんで、食育推進の指導的立場の方々に理解していただいたことがよかったと感じました。

イ. 牛乳料理教室の開催

平成20年1月24日(木)小田郡矢掛町で開催しました。

牛乳料理講習会も栄養士を対象とし、県栄養士会井笠支部の会員と行政機関などから21名の参加がありました。

最初、数日前に降った雪の残る、とても寒い矢掛町公共育成牧場で乳牛の育成や酪農、自給飼料の話聞き、その後、矢掛町農村環境改善センターに移って、牛乳料理講習を政木信昭先生からお聞きしました。

その後、各自が実習で作った料理みんなで試食し、牛乳・乳製品料理の美味しさを実感しました。

アンケートの結果、「何が良かったですか。」との問いに対して、「牛乳の調理実習」と答えた人が8割、「牧場が見学できたこと」と答えた人が5割ありました。「国産の畜産物についてどう思いますか」という問いに対して「安心して買える」と答えた人が8割ありました。

その際の意見を列挙しますと①酪農の大変さがわかった。②もっと牛乳を飲むようにしたい。③牛乳が安売りがされるのは何故なのか。④国産の畜産物は安心して買えるなどの意見が寄せられました。

(4) 第2回地域交流牧場協議会

第2回地域交流牧場協議会を平成20年2月5日(火)、この事業の総括として開催しましたが、この協議会で出された意見を紹介します。

①この事業を畜産の情勢が非常に厳しい今開催したことは時機を得ている。

①真庭市で行なっている「酪農イキイキ大作戦」と連携を保って開催することが出来

た。③学校教育も進めている食育の一環として開催できた。④酪農が危機的状況の中で児童らに食育として乳製品を進めてほしい。⑤学校栄養士は、給食の単価面で苦労しており、国産ばかり使うという訳にはいかないが、国産のよいところを伝えたい。⑦消費者へもっと価格面などでPRすべき

である。⑧マスコミだけでなく広報誌などにも取り上げてもらう努力がほしいなどの意見が出されました。今回協議会の方々から頂いた貴重なご意見を食育・地産地消・畜産物への理解醸成などの場で、機会あるごとに生かして行きたいと思います。



搾乳風景



ペンキ塗り



マスコミの取材



料理教室